

# 国際交流基金助成事業報告書

大阪医科薬科大学 薬学部 3年次生 有吉 栗芳

## 1. はじめに

この度、国際交流基金の助成を受けて、2025年8月15日から22日の8日間カナダバンクーバーサマープログラムに参加しました。期間中は、現地の学校で英語を学び、医療施設見学やホームステイなどを経験しました。

## 2. 渡航前に考えていた自分の目標

今回の私の目標は、「自分から積極的に質問すること」「日本との違いを比べながら研修に励むこと」でした。

## 3. その目標は渡航後どうだったか

1つ目の「自分から積極的に質問すること」は、何か疑問に思ったことはすぐにその場で質問することが大切だと思ったので、現地学校の先生や、ホームステイ先の家族や、現地で働いている薬剤師の方に質問をしました。英語力が足りず、上手く伝えられない場面がありましたが、文法を気にせず、諦めずに知っている表現を使ったり、表情や身振り手振りを使ったりすることで伝えることが出来ました。渡航前の事前学習で学んだことを活かす場面も多々あったので、日々の学習がどれだけ必要か痛感しました。渡航前は、失敗を恐れて自分から動くことができずにいましたが、考えることより行動することが大切だと気づき、コミュニケーションに自信がつきました。

2つ目の「日本との違いを比べながら研修に励むこと」は、3年次生なのでまだ実習はしていませんが、この研修に参加する前に日本でオープンファーマシーに参加していましたので、ある程度日本の病院薬剤師の役割や仕事について理解していました。その上で、カナダの医療に触れることができたので、日本と比べながら見学することができました。日本にも導入すればいいなと思うこともあり、日本の良さ、カナダの良さそれぞれ実感することが出来ました。

## 4. 医療施設見学

今回のプログラムには Vancouver General Hospital (VGH)、Richmond hospital、Shoppers Drug Mart の見学がありました。そこでは、現地で働いている日本人薬剤師の方からお話を聞くことができました。カナダの薬剤師の仕事は、日本の薬剤師とほぼ同じでしたがいくつか違う所がありました。ワクチン接種をすることや、処方権がある事です。処方権については、以前英語の授業でアメリカの処方権について調べましたがカナダにもあることに驚きました。緊急の時はなんでも処方することができ、日本では医師の

処方がないといけないのでいい制度だなと思いました。しかし、口頭処方もできるため、薬物入手のためによるなりすましが起きるという問題点もありました。また、日本でよく使われる漢方や湿布薬がない(カナダの人は皮膚が弱いため)こと、胃腸薬が少ない(日本人は胃腸が弱い人が多い)ことなど国によって必要とされる薬が違うことを知りました。日本では処方箋の有効期限は4日間であるのに対してカナダは2年ということに驚きました。期間が長い理由としては、カナダは医師に会うには薬剤師のアポイントメントが必要ですぐに会うことが出来ないため薬剤師が処方箋を確認して処方するかどうか判断する必要があるためだそうです。処方箋を薬局に預けることが出来るため、必要な時に薬局に行くとすぐ薬が貰えてとてもいいなと思いました。ファーマシー・テクニシャンという薬剤師と助手の間のような職業があることも初めて知りました。薬剤師の監督の下でピッキングや在庫管理、投薬準備などを担っており、薬剤師の負担が減り、薬剤師が患者さんと向き合うことに専念できるため、日本にも取り入れるべき職業ではないかと思いました。実際に薬局を見学させていただいた時に、麻薬患者の方が来られていて、薬剤師がその場で治療薬を飲ませていました。約束した日に患者さんが来て薬剤師が薬を飲ませることで、決まった薬を決まった量で確実に服薬できるメリットや、日を決めることで患者さんの様子を定期的に把握することができるなど様々なメリットがありました。



薬局で見た薬



現地学校での卒業式の様子

## 5. 語学研修

今回、Cornerstone International Community College に通い語学研修を行いました。プリントを使いながら医療器具や剤形、痛みの種類など会話をしながら学習しました。1番楽しかったのは、グループワークで患者さんや薬剤師として文章を作り会話形式で発表したことです。病気や怪我などを想定して文章を作りました。場面ごとに使うべき文章や単語などを教えてもらい、実際に話すことで、覚えやすかったです。単語もゲーム形式でとても楽しく覚えることが出来ました。英語には苦手意識がありましたが、カナダでの学習は楽しかったです。

## 6. 交流体験

### 【大学ツアー】

2日目には、ブリティッシュコロンビア大学のキャンパスツアーをしました。大学とは思えないほどの広さで、キャンパス内がひとつの街になっていて病院や学校、マンションがあり驚きました。歴史ある図書館や庭園などがあり建物もすごく綺麗で感動しました。たくさんの学部学科があり人も多く、私が通っている大学とは別物でした。大学内にはカフェもありそこで食べたサンドイッチがとても大きくて海外サイズでした。とても美味しかったです。



ブリティッシュコロンビア大学で  
購入したサンドイッチ

### 【ホームステイ】

ホームステイは、初めての経験ばかりでした。私のホームステイ先の方はフィリピン系の家族でした。上手く会話できるか不安でしたが、自分から話しかけると決めていたので最初に聞いておきたいことは勇気をだして聞きました。私たちが泊まっていた部屋は借りていたもので、専用のトイレやお風呂、部屋があり過ごしやすかったです。ホストマザーの方はとても親切で、上手く英語が伝わらない時や聞き取れなかつた時もゆっくり話してくださいました。期間中体調が悪くなり迷惑をかけてしましましたが、優しくしてくださいました。毎日違う朝食や、ランチボックス(左下の写真)を作って頂きましたが、特に家族の方が栽培しているブルーベリーは絶品でした。家族みんなで食べた夕食は、育てた野菜や釣った魚を振舞ってくださいり品数もとても多くて美味しいものばかりでした。家族の話や普段の休日の過ごし方、日本との関わりなど色々なお話をすることが出来て楽しかったです。



ランチボックス



ホームステイ先での食事の様子

## 【香港】

往路の飛行機のトラブルにより当初予定になかった香港1泊が急遽決まりました。そこでは、1日観光することが出来ました。2グループのディズニー組と観光組に別れました。私は観光をしました。香港の街を散策しながら美味しいものを食べ観光地に行きました。尖沙咀の景色はとても綺麗で観光客も沢山いました。近くにあった美術館には、香港の歴史を学ぶことができ、当時使われていたイギリスの時計やタバコが展示していました。他にも1881ヘリテージという1996年まで香港水上警察本部として使われていた所や、嗇色園黃大仙祠という有名な寺院を訪れました。食べ物はどれも美味しく特に印象に残ったのはエッグタルトとチャーハンと餃子です。やはり本場で食べるものは美味しかったです。思いもよらないアクシデントでしたが、貴重な体験ができる良かったです。



尖沙咀の景色



嗇色園黃大仙祠での写真



エッグタルト



実際に食べたチャーハンとワンタンスープ

## 7. これから自分の自分

今回の渡航では、たくさんことを学ぶことが出来ました。往路の飛行機アクシデントからはじまりましたが、置かれた場所で楽しむことの大切さや、自分から積極的に行動することの大切さを感じました。初めてのことだらけで不安でしたが、挑戦することで得られるものがあり、失敗して学ぶことも多かったです。今回参加したことで世の中にはまだまだ自分の知らないことがたくさんあり、知っていくと考え方が変わることを学びました。普段関わることの出来ない人達と接することで考え方が変わりました。これからは、目の前の勉強だけでなく、自分から行動して色々な経験を積んでいきたいと思います。